

# 基盤環境委員会

## 基盤環境委員会管内視察報告

◎所管する事業についての現地視察

### 《莊川町小水力発電施設候補箇所》

莊川町の中央用水を利用した小水力発電で岐阜県が施工し、その後は高山市に施設管理移行される予定である。用水でタービンを回し発電する、クロスフロ―水車方式である。小水力発電施設建設の工程は、①導入可能調査②概略設計③基本計画④実施設計⑤建設工事着工／完成となっている。当施設は現在③の

基本計画に入っているが平成26年度には実施設計の予定である。



利用が計画されている中央用水

また最大の難事は流れて来る「ごみ処理」で自動式処理方法を導入するが設置費は約800万円程度かかる。水利権は、灌漑用水の「慣行水利権」であるが、目的外使用となるので「許可水利権」ともなる。発電価格はkW14円、売電価格は34円で差し引き20円が収益となる。ただし、高山市の施設が全部使うのならば自家用でもよい。また、水稲の農繁期や育成期には水量がやや少なくなるので田圃

の節水に努めなければならない。

### 《太陽光発電施設》

地球温暖化が世界的な問題となっている現在、異常気象で、干ばつ、洪水被害等、気候に変化が起きてきている中、改めて再生エネルギーの利用促進が求められており、太陽光発電施設は大变に注目されている。高山市清見地域に飛驒地区最大級の太陽光発電施設（メガソーラー）が建設された。

規模は、パネル4,116枚（1枚当たり6・8kW）、直流から



積雪対策のためコンテナ上に設置

交流に変えて中部電力へ6,600ボルト売電。

風速40mに耐えられる。事業名は太陽光発電施設（メカトロニクス高山メガソーラーパーク）発電出力は996kW事業用地面積は30,000㎡総事業費は4億円着工年度は平成24年11月発電開始時期は平成25年9月。

### 《宮峠トンネル》

一般国道41号宮峠は、平日でも1日約24,000台通過し、日曜、祝祭日や観光シーズンは渋滞が発生し、特に冬期間は事故も多発している状況である。一之宮と久々野間のトンネル化が急務となっており、平成24年度から事業化（測量・用地買収）が始まった。全長1,860m、幅員8・5m、平均勾配は3・5%であり、平成24年度で約2億円、25年度で約3億円の用地買

収がほぼ完了している。

### 《渡瀬橋》

昭和36年3月に建設したもので、老朽化が著しく耐震も低い。平成25年度は下部工から始める。桁と桁はRC方式で橋脚はコンクリートで補強、舗装は新設で欄干はガードレールとし、平成26年度秋頃に完成する。



整備が予定されている渡瀬橋

現在の橋は幅員3・3mであるが、新設橋は歩道1・5mを設け車道5・0mとする。取り付け道路の用地買収は完了している。

### 《江名子配水池》

給水人口と需要の増により施設の新設を図る。一之宮水源から自然流下で引水し上部の配水池へ滅菌装置で滅菌しポンプアップしている。ポンプは3本で稼働しているのは2本、1本は予備としている。給水人口は7,980人、給水量（日最大）4,640㎥、日平均3,760㎥である。



### 《若宮橋》

市道（石浦飯山線）に架かる橋で全長44・0m、奥には43軒の民家があるが、この橋一本しかなく市道も行き止まりである。